

蓮

かしげなる菊の生たるをもてきたれば、

つめどなをみ、な草こそつれなけれあまたしあれば菊もまじれり、といはまほしけれど聞
いるべくもあらず、

〔本草和名十七〕藕實楊玄操音一名水芝丹、一名蓮本條一名水曰、一名靈芝、一名澤芝、一名美葉一名齒

菑已上五名一名水華出古一名加實一名嶮實、一名蓮華一名扶容、葉名荷、小根名芊、大根名藕初根
名交與已上出一名石蓮黑者出和名波加知須乃美、

〔倭名類聚抄二十〕芙蕖。爾雅云、荷芙蕖符芙蓉音。郭璞注云、芙蓉音江東呼爲荷也、

〔箋注倭名類聚抄十〕原書芙蓉上有別名二字、呼爲荷也、作呼荷三字、

〔倭名類聚抄二十〕藕。爾雅云、其本藕音密、和名波音、郭璞注云、莖下白藕音在泥中者也、

〔玉勝間四〕蓮葉のはひといふ物

和名抄に、菡爾雅云、其本藕、郭璞注云、莖下白藕、在泥中者也、和名波ハチ知須チヌ乃波ハヒ比ヒ、このはじめの菡
字を今のすり本に藕と書るは誤也、今は古本によりて引り、藕は古本には別にあげて、波ハチ知須チヌ
乃チ禰チとある、延喜内膳式に、荷葉稚葉七十五枚、波ハヒ斐ヒ四把半云々、はひは葉につきたる物ならぬ
に歌にはちす葉のはひとよめるは、いかなるやうなれども、葉ならでた、蓮をもはちす葉
と、歌には多くよめれば、はちすのはひといふこゝろなり、

〔倭名類聚抄二十〕茄。爾雅云、其莖茄音加、和名波音、知須音乃音久音木、

〔箋注倭名類聚抄十〕念孫云、廣雅釋木、柯莖也、樹莖名柯、因而草莖亦以爲名、爾雅荷芙蕖、其莖茄、茄

猶柯耳、

〔倭名類聚抄二十〕漚。爾雅云、其葉漚胡歌反、郭璞注云、漚亦荷字也、

〔箋注倭名類聚抄十〕原書無是注、此恐誤引、按說文云、荷芙蕖葉、不載漚字、廣韻乃云、漚蓮葉、按荷本